

盲導犬の普及啓発から見えてきたもの

伊藤 貴徳 (財団法人中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 普及啓発部)
 河西 宏枝 (財団法人中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 普及啓発部)
 吉兼 真紀 (財団法人中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 普及啓発部)
 山下真由子 (財団法人中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 普及啓発部)
 久野さやか (財団法人中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 普及啓発部)

はじめに

中部盲導犬協会盲導犬総合訓練センターは昭和45年に設立し、以来盲導犬育成事業を行ってきた。また、今年度9月5日をもって設立40周年を迎えた。

昨年度から普及啓発部として新たな部署を設置した。目的としては盲導犬、盲導犬育成事業について一般の方に理解を求めること。そのために、さまざまな活動を行っている。

活動内容

活動及び平成21年度活動実施回数

講師派遣 (80回)

見学会の開催 (45回)

街頭募金 (64回) **【写真1】**

イベントでのPR活動 (153回)

*年間合計 342回

今回は、見学会の内容について検討したので報告する。(見学会とは、当センターにおける啓発デモンストレーションのベースになっているものである)



写真1 募金風景

見学会の詳細

・目的 盲導犬の普及啓発を目的とし、正しい理解と盲導犬育成事業への協力を求める。

・時間 10:00～11:30

・対象者 一般市民

・定員 100名

・担当職員 PR職員3名
生活支援部職員1名
(盲導犬ユーザー)

※常時2名で担当している。

・場所 当センター4階大ホール

・連絡先 052-661-3111

見学会のプログラム

①講話 (視覚障害について)

②講話 (盲導犬について)

③実演・体験歩行 **【写真2】**
(PR犬によるデモンストレーション)

④身体障害者補助犬法ほか

⑤質疑応答

※PR犬とは盲導犬の普及啓発の為の活動を行う犬のことである。



写真2 見学会風景

①講話（視覚障害者について）

◇様々な見え方

人によって見え方が異なることや、見学会参加者に実際に目を閉じてもらい、その状態で家に帰ることを想像してもらうことで外出の大変さを理解してもらう。

◇主な外出歩行手段

- ・誘導による外出
- ・白杖による外出 **【写真3】**
- ・盲導犬による外出

※各歩行手段のメリット、デメリットを挙げ、目的などに応じて視覚障害者はそれぞれ、使い分けていることを説明する。



写真3 見学会風景

②講話（盲導犬について）

◇犬種について

現在盲導犬として活躍している犬種の紹介。現在ラブラドルレトリバーが一番多く活躍している。その他にはゴールデンレトリバーや、F1（第一代雑種）などが使われている。

◇ラブラドルが多く盲導犬として活躍している理由（主に、3つの理由を紹介）

- 見た目のかわいらしさ
- 毛の短さ
- 体の大きさ

◇盲導犬の一生

生まれてから亡くなるまで、どのように育ち、訓練し、成長するのか、盲導犬として仕事ができる期間など写真のスライドを交えながら進めていく。

また、盲導犬をもうために共同訓練を受けなければいけないことや、なぜ、受けなければい

けないのかも話す。

③体験歩行

（PR犬によるデモンストレーション）

◇服従訓練

座れ・伏せ・待てなどの基本的な訓練。

◇障害物訓練

犬が障害物を避けられるようになるにはどのように訓練するのか、実際に自転車などを用意し実演する。

◇誘導訓練【写真4】

ハーネスをつけての訓練。犬が障害物を自分で判断して避けられるようになってくる。どのようにして人に障害物を当てないように歩くのかを見てもらう。

◇体験歩行

見学者者の中から1人を選び、普段と同じように歩いてもらう。

次に、アイマスクをつけて歩いてもらい歩きの違いを比較してもらう。（アイマスクをつけているときは、声で誘導する）

最後にアイマスクをつけたまま犬と歩き、それぞれの歩きの違いを比較してもらう。

その後、希望者10名程度犬との体験歩行。



写真4 見学会風景

④身体障害者補助犬法など

◇街角で盲導犬を見かけたときについて

盲導犬に対して声をかけることや、触ること、食べ物をあたえることをしないで、あたたかく見守ってほしい。

◇盲導犬ユーザーへの誘導の方法について

誘導歩行の注意点などを、実演を交えながらの説明。【写真5】

◇身体障害者補助犬法について

身体障害者補助犬法とは、どのような法律なのか。法律ができたのに入店拒否がある現状。そして、そういった場面に出会ったときに、訓練を受けた犬なので入れてあげてほしいと言ってもらえるようお願いをする。



写真5 見学会風景



写真6 補助犬同伴可ステッカー

おわりに

「はじめに」で述べたように、紹介した見学会は当センターのデモンストレーションのベースになっているものである。これをもとに、さまざまな場所や、時間、参加者層に合わせた表現で啓発を行っている。

現在、見学会終了時にアンケートを実施し、一般の方からの意見を多く取り入れることで、より理解しやすい内容になってきている。

また、今年度からは普及啓発の人員も増えた為、年間実施回数も増えてきている。回数をただ増やすのではなく、今まで啓発できていなかった遠方での啓発などを増やし、より多くの方に理解を求めていきたい。

平成21年度の実施回数（計342回）の殆どの参加者が晴眼者であった事から、視覚障害者の参加が圧倒的に少ないことが問題として挙げられる。

今後は社会福祉協議会などの協力を得て、視覚障害者の見学会への参加を増やしていく必要がある。（晴眼者と同じ内容ではなく、③の体験歩行を中心としたものが望ましいと考えられる）

今年度は、社会福祉協議会を通じての視覚障害者対象の体験歩行を2回行う予定だが、両日程とも当センターでの開催でないので、当センターでも開催するようにしていく。

また、盲導犬だけではなく、補助犬全体の理解を深めていけるような啓発を目指し、見学会の計画を立案し実施していく。